

省略シテ直ニ採決スベシ本案賛成ノ各位ノ  
起立ヲ請フ

(全員起立)

議長(近衛) 全會一致可決セラレタリ

○

議長(近衛) 次ニ

臺灣總督府官制中改正ノ件

ヲ議題ニ供シ第一讀會ヲ開キ朗讀ヲ省略シ  
テ直ニ審査報告ヲ爲サシム

報告員(堀江) 謹デ此ノ案件ヲ審査シタルニ臺

灣總督府ニ於テハ司法行政ヲ掌ラシムル爲  
メ大正十二年以前ニハ法務部ノ設置アリタ  
ルガ行政整理ノ結果消滅シ以後同府官房並  
各局事務分掌規程ヲ以テ總督官房ニ法務課  
ヲ置キ民事刑事其ノ他司法行政ニ關スル事  
項、行刑ニ關スル事項、司法保護ニ關スル事項  
等ヲ掌ラシム然ルニ現在同府ニ屬スル法院  
並ニ檢察局ニ於テハ高等法院長同檢察官長  
以下八名ノ勅任官ヲ配置セラルルニ對シ總

督ノ補助機關トシテ之ガ監督事務ヲ掌理ス  
ル前述ノ法務課ニ於テハ僅ニ課長ニ奏任事  
務官一名ヲ配置セラルルニ過ギズ從テ斯ル  
機構ヲ以テシテハ到底司法人事ノ處理司法  
官ノ指導訓練檢察事務ノ指揮行刑事務ノ指  
導等司法行政事務ノ遂行ニ當リ之ガ萬全ヲ  
期シ得ザルノ嫌アリ加フルニ近時臺灣關係  
ノ重要司法法典中改廢制定ヲ必要トスルモ  
ノ尠カラザルモノアルニ至リ之ガ處理ニ付  
テモ亦缺クル所アルノ憾ナシトセズ由テ此

ノ際其ノ機構ヲ擴大強化シ以テ時要ニ應ゼ  
ンガ爲メ從前ノ法務課ニ代ヘテ同府内ニ一  
局ヲ新設セントス又同府ニ於テハ昭和十三  
年以來前述規程ヲ以テ總督官房ニ外務部ヲ  
置キ南支南洋其ノ他海外ニ關スル事項外國  
人ニ關スル事項及其ノ他ノ涉外事項ヲ掌ラ  
シムルコトトシ其ノ部長ハ勅任ノ事務官ヲ  
以テ之ニ充ツルヲ例トセリ然ルニ今次事變  
ノ進展ニ伴ヒ南支南洋ニ對スル帝國ノ施策  
如何ハ事變ノ目的達成ニ至大ナル關聯ヲ有

スルニ及ビ帝國南方ノ據點タル臺灣ノ地位  
 一層ノ重キヲ加フルニ至レリ從テ從前同府  
 ニ於テ掌理シ來レル南支南洋關係ノ諸施設  
 ハ此ノ際愈々之ガ擴充ヲ圖ルノ要緊切ナル  
 モノアリ更ニ事變ハ南支ノ地域ニ波及シ爲  
 メニ此ノ方面ニ對スル各般ノ應急措置及復  
 興施設ニ付テモ亦其ノ協力ヲ要スルモノア  
 ルニ至レルヲ以テ之ガ掌理ニ當ル從前ノ外  
 務部ノ機構ヲ以テシテハ到底現下ノ急需ニ  
 應ジ圓滑ナル遂行ヲ期スルコト能ハザルニ

由リ其ノ地位ヲ昂上シ處務ニ便ナラシムル  
 爲メ現在ノ事務分掌規程ニ基ク部ヲ廢シテ  
 官制上ノ部ト爲サントス以上兩部局ノ設置  
 ヲ目途トシ茲ニ本件ヲ以テ現行臺灣總督府  
 官制中ニ改正ヲ加ヘントスルモノニシテ本  
 案改正ノ要旨ハ同府ニ在來ノ總督官房及六  
 局ノ外ニ新ニ法務局及外事部ナル一局一部  
 ヲ設ケ其ノ事務ノ分掌ハ總督ヲシテ之ヲ定  
 メシムルコトトシ該部局ノ設置ニ因リ勅任  
 ノ局長部長各一人奏任ノ事務官二人(法務局

及外事部ニ各一人宛及法務局ニ屬セシムベ  
 キ屬五人ヲ増員スルコトトシ又従前ノ勅任  
 事務官一人ハ之ヲ外事部長ニ振替フル趣旨  
 ヲ以テ事務官中勅任ト爲シ得ルモノノ定數  
 一人ヲ減ジ局長及外事部長ハ總督及總務長  
 官ノ命ヲ承ケ其ノ主務ヲ掌理シ部下ノ官吏  
 ヲ指揮監督スルモノトシ従前ノ分課ニ關ス  
 ル規定ハ實情ニ適應セザルモノアルニ由リ  
 之ヲ削除スルコトトシ其ノ他必要ナル字句  
 ノ整理ヲ爲サントスルニ在リ而シテ此ノ増

員ニ要スル經費ハ總テ本年度豫算ニ計上セ  
 ラレタリ

按ズルニ本件ハ臺灣總督府ニ於テ司法行政  
 ニ關スル監督機能ヲ強化擴充センガ爲メ及  
 涉外事務ノ増進ニ應ジ機構ヲ整へテ之ガ處  
 理ニ遺憾ナカラシメンガ爲メ新ニ部局ヲ設  
 ケ以テ従前ノ課又ハ内部規程ニ基ク部ニ代  
 ラシメ竝ニ之ニ伴ヒ必要ナル職員ノ増置ヲ  
 爲サントスルモノニシテ已ムヲ得ザルモノ  
 ト認メラルルニ由リ此ノ儘之ヲ可決セラレ

然ルベシト思料ス

右謹デ審査ノ結果ヲ報告ス

三十五番(潮) 唯今ノ審査報告及政府ヨリ提出

セラレタル説明書ニ依レバ本案ノ法務局及

外事部ノ設置ハ其ノ必要ヲ認メラレ殊ニ外

事部ノ設置ハ事變ノ進展ニ伴ヒ愈々緊急ヲ

要スルモノト思料セラル從テ之ニ要スル經

費モ本年度豫算ニ掲ゲラレ其ノ九ヶ月分が

計上セラレタリ然ルニ本案ハ二月モ既ニ了

ラントスル今日ニ至リ始メテ本院ノ審議ニ

上リ豫定セラレタル九ヶ月月中八ヶ月ハ既ニ

經過シ假令茲ニ其ノ設置ヲ見ルトスルモ其

ノ效能ハ僅ニ一ヶ月現ハルルニ過ギズ斯ル

事態ハ行政ノ運用上ハ勿論豫算ノ執行上遡

ツテハ其ノ編成上考慮ヲ要スルモノナリト

思料セラル尤モ從來ニ於テモ官制ノ制定が

豫定ヨリ遅延シタルコト少カラザルモ特ニ

緊急ヲ要ストセラルル本案ノ如キ案件が斯

ノ如ク遅延シタルハ如何ナル理由ニ依ルモ

ノナルカ差支ナキ限り斯ル事態ニ立至リタ

ル經過事情ヲ示サレタシ尚本年度豫算ニ關係アル官制ニシテ制定改廢未了ノモノアリヤ若シアリトセバ政府ハ急速ニ之ガ解決ニ當ル見込ナルカ併セテ伺ヒタシ

委員(廣瀨) 臺灣總督府官制ノ改正ハ主トシテ事務的關係ニ於テ研究ヲ要シタルニヨリ滯延シタルナリ十四年度豫算ニ關聯シ尚朝鮮ノ地方廳ニ關スル特別制度ノ件ニシテ樞密院ノ御諮詢ヲ仰グベキモノアリ政策的ニ見テ慎重ノ研究ヲ要スルモノナルモ成ルベク

取急ギ進行セシメタシト考フ

二十六番(石塚) 本案ニ關聯シテ外務大臣ニ御

尋シタシ臺灣總督府外事部ノ機能ノ擴充ハ

南支南洋ニ關スル事務ノ增進ニ應ゼシムル

ガ爲メナリトセララル茲ニ南洋ト謂フハ帝國

ノ委任統治區域ハ別トシ主トシテ和蘭領印

度ヲ指スモノト思料ス此ノ方面ノ經濟的發

展ト先後シテ外交的工作之ニ伴フヲ要スベ

シ仍テ伺ヒタキハ政府ニ於テハ蘭印ヲ對照

トシ和蘭國政府ト不可侵條約其ノ他ノ取極

ヲ考慮中ナル旨新聞紙上又ハ議會ニ於テ表  
明セラレタルガ其ノ大體ノ模様如何

六番(有田) 蘭領印度方面ニ帝國ガ經濟的進出

ヲ爲スヲ要スルハ勿論ナルガ此ノ方面ニ於

テハ帝國ノ真意ニ付誤解ヲ抱ク者多ク先ツ

斯ル觀念ヲ一掃スルコトガ先決問題ナリシ

ニ付テハ帝國ノ平和的意圖ヲ表明セントノ

思想ヨリ數年前和蘭國政府ト仲裁裁判ニ關

スル條約ヲ結ビタリ其ノ後モ和蘭國政府ト

ノ間ニ蘭印ニ關シ保障條約又ハ不可侵條約

等或種ノ諒解ヲ締結スルヲ可ナリトシ先方

ノ意嚮ヲ探リタルガ和蘭國ハ同國ノ中立政

策ヨリシテ他ノ特殊ナル一國ト敘上ノ如キ

條約ヲ締結スルヲ好マザル意嚮ヲ有スルコ

ト明カト爲リタルニ由リ目下帝國政府ニ於

テモ居住往來ノ問題ヲ我國ニ有利ニ解決ス

ルコトニ努力シ居レル外未ダ一般的條約締

結ノ交渉ヲ試ムルニ至ラズ

二十六番(石塚) 從來蘭印諸島ニ關シテハ和蘭

國ハ英國ニ依存シタルガ如ク見エタルガ歐

機密院

洲ニ事起リテヨリ以來ハ米國ガ之ニ代リタルガ如ク見ユ帝國ト和蘭國トノ關係ニ付米國ガ和蘭國ノ後楯ヲ爲スガ如キコトナキカ尚日米兩國間通商條約ノ問題ハ如何ニ爲リ居ルカ先般「ハル」國務長官ハ新聞記者トノ問答ニ於テ右ノ問題ハ東京ニ於テ折衝行ハレツツアリト云ヒ又一方石井「ランシング」秘密協定ハ公表セラルルガ如キコトヲ聞ク此等ニ付テハ米國政府ニ何等カノ他意アルモノナルカ東京ニ於テハ別ニ外務大臣ト「グル」

米國大使トノ會見ノ如キコトヲ聞カズ米國政府ハ曩ニ日米兩國間ノ通商協定ヲ廢棄シ東亞新秩序ハ之ヲ認メズトノ大ナル手ヲ打チタリ之ニ對シ帝國側ニ於テ手應ナシトセバ米國ハ今後種々ノ行動ニ出ヅベシ帝國トシテハ米國ニ對應スル手ヲ打ツノ要アリト思料ス國民ガ齊シク重大關心ヲ持ツ此ノ問題ニ關シ政府ハ如何ニ考ヘラルルカ差支ナキ限りニ於テ大體ノ説明ヲ願ヒタシ

六番(有田) 歐洲大戰ノ爲メニ英國ガ歐洲方面



ニ多忙ニシテ東洋方面ニ注意ヲ向ケ得ザル  
狀況ニ在ルニ由リ米國ガ東洋ニ於テ帝國ヲ  
牽制セントスル様子ハ看取セララル所ナル  
モ蘭領印度方面ニ於テハ右ノ如キ行動ハ未  
ダ感知セラレズ大體ニ於テ東亞ニ於ケル英  
佛兩國ノ力ガ減ジタル爲メ米國之ニ代リ帝  
國ノ牽制ニ出ヅベキコトハ考ヘララル所ナ  
リ日米兩國間通商條約ノ問題ニ關シテハ米  
國ハ帝國ノ所謂東亞新秩序ヲ未ダ諒解セズ  
門戶開放機會均等ノ原則ニ付テハ彼我ノ間

ニ意見ノ相違アリ米國政府ハ帝國政府ガ英  
米兩國ノ在支權益ヲ驅逐スルノ意向ナシト  
スル言明ハ事實ニ相違セリト強辯シ通商條  
約ノ問題ヲモ之ニ關聯セシメテ考慮シ遂ニ  
日米兩國間ニ無條約時代ヲ現出セルガ之ニ  
代ルベキ新條約又ハ暫定協定ヲ締結スルコ  
トニハ相當ノ困難アリ現内閣モ條約ノ締結  
ニ努力スベキハ勿論ナルガ無條約ト爲リタ  
リト雖條約關係アリタルト同様ノ事實關係  
ヲ保ツコトニ努力スベク之ガ爲メニハ支那

ヲ圍リテノ日米兩國間ノ問題ハ成ルベク速ニ解決シタキ意向ナリ「ハル國務長官ガ通商條約ニ關シテハ東京外務省ト「グル」大使トノ間ニ折衝セラレツツアリト云ヘルコトハ新聞紙ニ由リ承知シタルガ之ハ米國ノ國內ニ對シ日米間ノ條約ニ關スル交渉ガ打切ラレ居ラザルコトヲ示サンガ爲メノ言ナリト思料ス帝國側ニ於テモ之ヲ打切ルノ必要ナカルベク現ニ本官外務大臣ニ就任シ「グル」米國大使ト會見セル際前大臣ト同様ニ交渉

ヲ續ケタシト云ヒ置キタリ其ノ後未ダ交渉ノ材料調ハザル爲メ會見ノ機至ラザルモ前內閣ノ方針ト異ナレリトノ疑懼ヲ抱クノ要ナシ米國ニ於テモ短兵急ニ帝國ニ對シ經濟的壓迫ヲ加ヘントスルガ如キ意ナキガ如シ最近ノ情勢ハ此ノ際米國ガ無思慮ニ事ヲ爲サバ日米間ニ險惡ナル事態發生スベキコトヲ惧レ足踏ヲ爲シツツアルガ如シ然レドモ何レニセヨ米國ハ帝國ニ對シ經濟的壓迫ヲ加ヘ得ルノ立場ニ在リ帝國トシテハ諸懸案

ノ解決ニ努メ日米兩國國民ハ相互ニ事態ヲ  
認識シ慎重ニ行動スルコトヲ要スト考フ政  
府トシテハ無條約ニ因リ日米兩國間ニ不測  
ナル事態ノ發生セザルヤウ充分注意ヲ加ヘ  
ツツアリ

議長(近衛) 他ニ御發言ナキ故第二讀會以下ヲ

省略シ直ニ採決スベシ本案賛成ノ各位ノ起

立ヲ請フ

(全員起立)

議長(近衛) 全會一致可決セラレタリ

本日ハ之ニテ閉會ス

聖上入御

(午前十時五十五分閉會)

議長公爵近衛文磨

書記官長松江季雄

書記官

諸橋 襄

高辻 正巳



勅令第 號

臺灣總督府官制中左ノ通改正ス

第十七條第一項中「六局」ヲ「七局及一部」ニ

「警務局」ヲ「警務局外法務局事務部」ニ改ム

第十八條中「及各局」ヲ「各局及外事部」ニ改

メ「及其ノ分課」ヲ削ル

第十九條第一項中「局長 六人」ヲ「局長

七人ニ「事務官 專任三十八人 奏任

内二人ヲ勅任トシ「外事部長一人 奏任  
爲スコトヲ得」ヲ事務官 專任三十九人

勅任 奏任内一人ヲ勅任トシ屬 專任三百  
爲スコトヲ得」

四十四人ヲ屬 專任三百四十九人ニ改

ム

台二

第二十條中「部務ヲ府務ニ及各局ヲ各局  
及外事部ニ改ム

第二十一條 局長及外事部長ハ總督及  
總務長官ノ命ヲ承ケ其ノ主務ヲ掌理  
シ部下ノ官吏ヲ指揮監督ス

第二十五條中「及各局ヲ各局及外事部ニ  
改ム

第二十九條 削除

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス